



教師ガイド 世界市民意識の育成

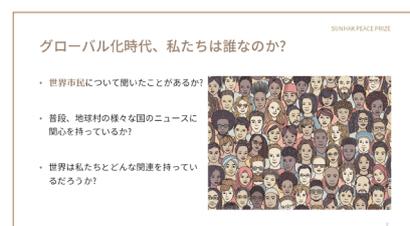
導入1：国境を越えた日常

- 日常生活の中の世界の物たち：私たちは朝アメリカの農夫が栽培した小麦粉で作ったパンを食べ、フィリピンの工場生産されたTシャツを着て、中国で生産された電子機器を使い、中東から輸入した油で運行するバスに乗る。私たちが使う生活の中の多くの物品は、世界のあちこちで生産されたものである。
 - リアルタイムで生中継されるグローバルニュース：通信の飛躍的な発達により、人類は全世界のニュースをリアルタイムで知ることができるようになった。
 - 多様な国籍と人種の隣人：周辺を見回してみると、世界の多様な地域と文化圏から来た人々を容易に目にする事ができる。
- + 情報通信の急激な発達によって私たちはグローバル化された世界に住んでおり、世界は一つの共同体となりつつある。



導入2：グローバル化時代、私たちは誰なのか？

- 世界市民について聞いたことはあるか？
 - 普段、地球村の様々な国のニュースに関心を持っているか？
 - 世界は私たちとどんな関連を持っているだろうか？
- + **グローバル化された世界**：グローバル化とは、世界の様々な国が政治、経済、社会、文化、科学など多様な分野で互いに影響を与え合いながら交流が広がる現象を意味する。交通や通信の飛躍的な発達により人類は1日で地球の反対側に飛んで行くことができ、全世界のニュースをリアルタイムで知ることができるようになった。同時に全世界の相互依存性が高まり、グローバル化による問題も深刻化している。
- + **新たな人類の必要性**：地球村時代では、その視野が国家を越え全世界に拡張されたグローバル市民を必要としている。人類がともに直面する問題を認識しこれを解決するため努力することは、地球村のためであると同時に個人々人皆のためでもある。



導入3：地球村時代、世界的拡散

- **2008年のグローバル金融危機**：全世界は、経済的に互いに依存している。国家間での金融の流れが自由となり、一国の好況だけでなく金融危機までもが他国の経済に大きな影響を及ぼすようになった。2008年にアメリカを襲った金融危機は、全世界的な景気低迷を招いた。
- **コロナウイルス感染症のグローバル的拡散**：エボラ、サーズ、COVID-19は、特定地域で発病した後世界的に拡散した感染症である。特にCOVID-19は伝染速度が非常に速く、現在までに（2024年）全世界で7億6千万人の感染者が発生し、これにより死亡した人の数も640万人にのぼる。



1. 世界市民とはどんな人なのか？

- **市民**：民主社会の構成員かつ政治的権利を持った主体で、自発的・能動的に国家の政策決定に参加する人を称する。
 - **世界+市民**：世界市民はともに生き行く地球村を築くため、共同体意識を基に多様な地球村問題に関心を持ち、これを解決すべく積極的に行動する人を意味する。世界市民は人種、国家、宗教などが異なるといった理由で他人を排斥せず、地球村が当面の問題を解決できるよう持続的に関心を傾け、代案の模索に努める。
 - **世界市民意識**：世界市民意識は自らを一国家の国民であるというだけでなく地球村共同体の一構成員と認識し、世界市民としての権利と義務を持つべきと考えることを意味する。
- + 私たちはグローバル化された地球村に住んでおり、無意識のうちその影響力の下に置かれているため、私たち皆はすでに世界市民である。



2. 「世界市民」という言葉はいつから使われたのか？

- **古代ギリシャの哲学者**：2千年前のアリストテレスをはじめとする古代哲学者は、すでに自分たちを「世界の市民」とすると主張した。自分たちの属する個別的な都市や集団を越えて世界全体に所属感を持ち、世界のための文化的・政治的価値を提供すべきであると考えた。
- **20世紀初頭**：1900年代に2度の世界大戦を経て、人々は二度とこのような悲劇が起きないようにするには地球村の皆が協力しなければならないという考えに至り、平和と自由、人権の価値を守るため、国際連合(UN)を創設した。このような過程を経て、国際社会は世界市民意識を育むようになった。



- **20世紀以降**：交通と通信が飛躍的に発展し、人類はさらに近く緊密に疎通するようになった。このようなグローバル化の流れとともに世界市民に対する認識が広がり、世界市民に要求される価値と資質が人類の考えの中に位置していった。

3. 世界市民にとって重要な価値とは何か？

- **人権**：人間として当然受けるべき人間らしく生きる権利を「人権」という。人種、宗教、民族、国家、富の程度、障害の有無などに関わらず、地球村の人々皆が彼ら固有の人権を尊重されなければならない。
- **相互依存性**：世界のすべての地域の人々は、互いに相互依存的な関係に置かれている。全世界で発生する事柄は経済的側面だけでなく環境、文化、社会、政治的な側面においても自分自身が影響を受け与えていることを知らなければならない。
- **多様性**：多様な人々が平和に共存するための必要条件は、相互の違いと多様性を認め尊重することである。人種と宗教、社会的・歴史的・政治的背景、言語・文化的違いを認め、他人に対する先入観と偏見を捨てて、開かれた態度を持たなければならない。
- **持続可能性**：人間が長期的な成長を理由に短期的に自然資源を破壊しないことを「持続可能性」という。すなわち、人間が自然との調和を維持しつつ発展していくことを意味する。



4. 世界市民はどのような態度を持つべきか？

- **世界市民意識に関する映像を視聴**：
 https://www.youtube.com/watch?v=nhb6sL__mhs
- **他人への共感**：地球村すべての人々の人権は、人種、性別、地域的特性、宗教、経済的困難などの理由で侵害されてはならない。世界市民は人権が侵害された地球村の隣人の苦難を注視し、彼らの苦しみに共感する態度を持たなければならない。
- **違いに対する尊重**：世界市民はそれぞれ異なることを尊重し、文化の多様性を認める態度が必要である。
- **批判的思考と創造的思考**：世界市民は地球村で発生している現象を見て原因と結果を分析し、その原因をどのように取り除き創意的に問題を解決できるか考える態度を持たなければならない。
- **積極的行動**：世界の問題を認識して解決方案を見出した後には、行動が要求される。発達した通信連結網を活用して世界の様々な地域の話を傾聴し、自分なりの声をもって行動しなければならない。



5. 世界市民はどんな問題に関心を持つべきか？

- **持続可能な開発目標**：2015年、国連総会で2030年までに達成することを決議した人類共同の17の目標である。これは「誰一人取り残さない(Leave no one behind)」というスローガンとともに人間、地球、繁栄、平和、パートナーシップという5つの領域で人類が進むべき方向性を17の目標と169の細部目標に提示している。
- **世界を変えるための17の目標**：1.貧困をなくそう 2.飢餓をゼロに 3.すべての人に健康と福祉を 4.良質の教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 6.安全な水とトイレを世界中に 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう 10.人や国の不平等をなくそう 11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 14.海水の豊かさを守ろう 15.陸の豊かさでも守ろう 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう



5. 世界市民はどんな問題に関心を持つべきか?(1.貧困をなくそう)

- **絶対的貧困6億8千万人**：貧困は一般的に「物質的所有物や金銭が不足したり欠乏した状態」を意味する。絶対的貧困(1日の生計費が2.15ドル以下)状態で生活する人々は全世界人口の8.9%に上る6億8千万人である(ワールドバンク2024年統計)。不足な食糧や不十分な生活条件により生存が危ぶまれる「絶対的貧困」は、皆が力を合わせて解決すべき問題である。
- **富の不平等**：世界最高の億万長者42人の資産が、全世界の下位38億人(世界人口の50%)の資産とほぼ等しい(オックスファム 2024年統計)。特に新自由主義の貿易体制が強調され、先進国の多国籍企業らが低開発国家と開発途上国に莫大な利潤を残し、グローバル規模の富の不平等はより一層深刻化する傾向にある。
- **問題解決のための世界市民の役割**：
 - ① **国際的開発協力**：地球村のすべての国家が人間の人間らしい生活を保障し、生活を営める基礎的な足場を用意して、彼らのより良い暮らしのために互いに助け合うすべての活動を国際開発協力という。国際機構を中心に先進国が低開発国家と開発途上国に貧困撲滅、教育、保健などのための資金と物品を支援することである。
 - ② **公正貿易**：開発途上国の製品生産者の経済的自立と持続可能な発展のために彼らにより有利な貿易条件を提供(生産者に正当な代価を支給)する貿易形態を公正貿易という。公正な



貿易を通じて開発途上国の貧しい生産者と労働者を保護する一方、彼らが直面する人権侵害、労働力搾取の問題までも解決することができる。

5. 世界市民はどんな問題に関心を持つべきか?(2. 飢餓をゼロに)

- **7億人の飢えた人々：**現在、全世界の栄養失調人口は約7億人(9.2%)である。国連は2030年までに飢餓とすべての形態の栄養失調の終息を目標にしているが、実際には達成が難しいという見通しである。
- **食糧不平等：**全世界の食糧量は地球上のすべての人が食べて残るほど十分だ。しかし生産、流通、供給方法が最貧状態にある人々を考慮していないため、数億人の人々が飢餓に苦しんでいる。貧困と飢餓は個人の力量不足に起因するが、適切な福祉制度の不在、不正腐敗、不公平な貿易構造など、社会的、政治的、構造的 不平等の結果でもある。よってこれを解決するには政治的、社会的脈絡から総合的に接近するべきであり、グローバルな観点で解決策を模索する必要がある。
- **問題解決のための世界市民の役割：**
 - ① **国際食糧援助事業：**世界食糧機構(WFP)、オックスファム、国連難民機構などの国際機構では、絶対的貧困状態の人々に食糧を支援している。このような食糧援助団体の後援活動を行うことも世界飢餓撲滅に参加する一つの方法となり得る。
 - ② **食物の浪費を減らすこと、ゼロ・ウェイスト運動に参加すること**なども飢餓撲滅のための日常的な努力といえる。



5. 世界市民はどんな問題に関心を持つべきか?(3. すべての人に健康と福祉を)

- **環境汚染：**一国家で発生した汚染物質は大気と海流を通して全世界に拡散する。代表的な汚染物質には黄砂や粒子状物質、船舶油と放射性物質などがあり、国家間の葛藤と紛争の原因ともなる。
- **気候危機：**18世紀に産業革命が始まって以来、人類が使用した化石燃料は絶えず温室ガスを排出してきた。温室ガスは地球の気温が次第に上昇する地球温暖化を引き起こし、2020年基準で去る100年間の地球の平均気温は何と1.1℃も上昇した。これにより氷河が減少して海水面が上昇し、各種の気象異変と自然災害が発生して、地球生態系を脅かしている。
- **問題解決のための世界市民の役割：**
 - ① **国際社会は気候変動に積極的に対処するための気候条約を結び、温室ガス縮小のための行動を実践する。**



- ② 国家は気候条約を実行するため制度を整備して規制を用意する一方、温室ガスの減少を促進する政策を施行する。
- ③ 企業は生産時の温室ガス排出を削減できる製品を開発し、経営全般において環境親和的な実践を強調する。
- ④ 個人は日常生活の中で実践可能なことを中心に、温室ガス削減に努める。

5. 世界市民はどんな問題に関心を持つべきか?(4.紛争と難民)

- **国際紛争**：今日も地球村のあちこちで宗教、人種、文化などが互いに異なるという理由で国家間、民族間紛争が起きている。特定地域で始まった地域紛争は国家間戦争や無差別的テロとして悪化し、全世界的な恐怖として拡大することもある。最近では宗教的原理主義や排他的民族主義により、葛藤と摩擦がより一層深刻化してきている。パレスチナとイスラエルの紛争、シリア内戦などは、周辺国にまで影響を与えている。
- **難民危機**：全世界の難民は、世界人口の1.5%である1億2千万人に上る。(国連難民機構2023年統計)難民とは、国際紛争により発生する戦争、迫害、安全の脅威などから逃れるため、生活していた地域を離れて他国に脱出する人々を意味する。43世紀に入り、中東およびアフリカ地域の紛争が激化するとともにその数が爆発的に増加し、難民の相当数は国境を越える過程で死に追い込まれることもある。多くの国で難民受け入れに対する賛否世論が交錯し、難民の行き先の問題が深刻な危機を迎えている。
- **問題解決のための世界市民の役割**：
 - ① 文化の多様性を尊重するための法と制度を拡充する。一国家内に様々な民族が暮らす場合、複数の公用語を指定して使うようにし、それぞれの宗教の自由を法で保障し尊重する。
 - ② 国際連合(UN)と国連難民機構(UNHCR)などの国際機構は、国際紛争を仲裁し被害者の救護に努めている。これらの機構は国際的な葛藤を解決し、平和を脅かす国や団体を制裁して、紛争により発生する難民を保護し救護する役割などを担う。



6. 世界市民意識を形成する4つのステップ(出処：マーク・ガーゾン『世界で生きる力』)

- **直視(目を開く)**：世界市民意識を培うことは、世界で起きていることに対して目を開くことから始まる。問題を傍観者の立場ではなく、自分のこととして認識するのが最初の段階である。
- **学習(知性を呼び起こす)**：世界の問題を直視すると、自然とそれに対して詳しく調べたくなるものだ。感心のいく問題に対して知識を積み上げ解決策を模索することが2つ目の段階である。



- **連帯(関係を形成):** 地球上のすべての人類が互いにつながっているという相互連結性を基に関係を形成することが3つ目の段階である。さらに世界市民は、「敵」と呼ばれる人々とも連帯関係を築く姿勢を持たなければならない。
- **地球規模で協力(共に働く):** 世界市民は問題の原因と結果を分析し、その原因をどのように取り除いて窮極的に問題を解決するかを熟考し行動しなければならない。
- + **難民問題を例に挙げて考える:** 難民問題に関心を持つ ⇨ 難民危機について学習 ⇨ 難民の苦難に共感し彼らと連結手段を見つける ⇨ 難民救護団体の後援活動を行う

7. 世界市民意識に基づいて活動する国際機構

- **国際機構とは?:** 全世界は地球村としてくられるようになり、活発な交流の中で多くの問題が生じている。国際機構はこのような問題を全世界の多者間協力に基づいて解決する機構である。
 - ① 国際機構は国際政治の舞台で個別的な国家とは別途に独立した権利を持って影響力を行使する。
 - ② 国際機構は各国の代表が世界で起きている特定問題に対し、ともに討論して協議できる場を提供する。
- **国際連合(UN):** 国際連合は国家の連合として、世界2次大戦終息後、世界戦争の防止と平和維持のために設立した機構である。超国家的に生じる問題に対する共同の代案を見つけるために作られ、大きく分けて平和維持活動、軍備縮小活動、国際協力活動を展開している。
- **世界食糧計画(WFP):** 全世界の飢餓撲滅のために活動する世界最大の人道支援機関。民間の運送が難しい紛争地域および辺境地域に食糧を輸送する国連機構で、飢餓が戦争と葛藤の武器として活用されることを防ぐのに大きく寄与している。
- **世界保健機構(WHO):** 世界2次大戦終息後、保健・衛生分野の国際的協力を図るべく設立されたUN専門機構。全世界の人類皆が身体的・精神的に最高の健康水準に到達することを目的とし、中央検疫所業務と研究資料の提供、流行性疾病および伝染病対策の後援などの仕事をしている。



8. 世界市民意識の高い人々

- ジーノ・ストラダ:** 全世界紛争地域で戦争犠牲者を生かしたイタリア外科医(1948~)。2017年鮮鶴平和賞受賞者。全世界すべての人は富の程度と関係なく全部「治療を受ける権利」があるという信念の下、1994年に国際緊急医療団体である「イマージェンシー(Emergency)」を設立し、紛争地域の患者の生命を救った。(16ヶ国以上で60以上の緊急医療施設を運営、800万人余りの生命を救護)。世界で最も貧しい国の人であっても現代の最高水準の医療的恩恵を受ける権利があるという信念から、アフリカ砂漠の真ん中に世界最高水準の心臓外科センターおよび専門治療センターを構築するプロジェクトを進行中にある。『人権とは、生きていけるすべての人間が同等な権威を持つことです。それは貧富格差によってA・B・Cなどのランクに分けることのできないものです。』
- 潘基文(パン・ギムン):** 第8代国連事務総長(1944~)。2020年鮮鶴平和賞受賞者。潘基文総長は10年間国連を陣頭指揮して持続可能な開発計画、気候危機への対応にの先頭に立ってきた。退任後は全世界の若者たちに『国家を越えて地球村市民としての権利と責務を持つこと』を訴えている。『全世界76億の人々の中には、恩恵を受けられず疎外され、職を失い、絶望的な状況の数十億人の人々がいます。私たち皆が世界市民として情熱を持って行動すれば、彼らの助けとなることができます。』



9. 世界市民意識とCOVID-19

- 世界市民の日常を変えたCOVID-19:** 類例のない伝染病の世界的流行により、地球村全体が混乱をきたしている。世界保健機構は2020年3月11日にパンデミックを宣言し、COVID-19の世界的大流行を公式化した。
- ウイルスより恐ろしい嫌悪:** コロナウイルスにより、最初の発生地である中国と中国人、さらには東洋人に対する嫌悪と差別、無条件排他主義が生じている。こうした排他的な態度は超国的協力が必須であるパンデミックの解決に対しむしろ悪影響を与えるだけである。
- 連帯意識と協力:** 国家利己主義では感染症であるCOVID-19を克服できない。これを克服するには全世界的連帯意識の下でワクチンと治療法を開発し、防疫ノウハウを共有するなど。超国的協力が必要だ。さらにはパンデミック以前から紛争と飢餓、暴力と貧困で苦しい生活を送ってきた多くの人々には、この状況がより苛酷な危機であることを認識し、これまで以上に大きな関心と努力を傾けなければならない。

